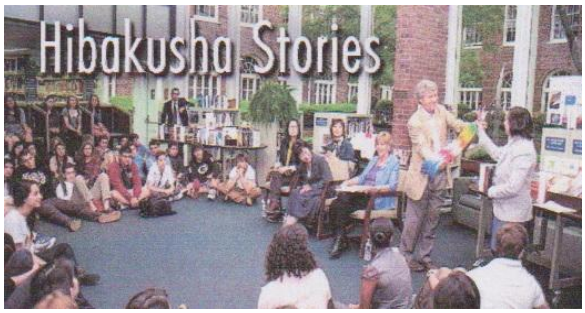
舟　は　スローライフ・持続可能社会　の　先進役　　2026 年 1 月

お 江 戸 舟 遊 び 瓦 版　1141 号

水彩都市江東　　こころ美しい日本の再生　　安全・安心まちづくり

お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会　　江東区千田 13-10

「Hibakusha Stories(被爆者ストーリーズ)」



日時：25 年 12 月 7 日（日）10：15～12：30

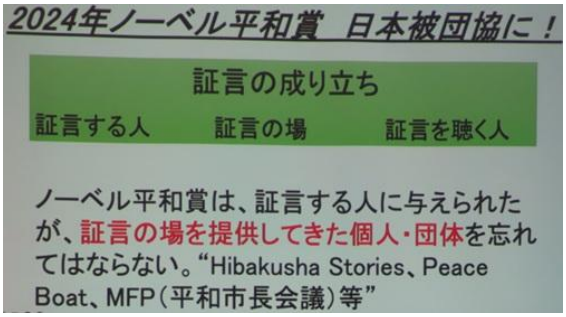
所：文京シビックセンター　会議室

主催：共創みらい塾

はじめに

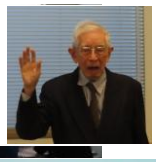
Hibakusha Stories(被爆者ストーリーズ）は、NGO ピースボートのおりづるプロジェクト他と提携して、被爆者をニューヨークに招き、NY の高校生に、苦悩と希望の被爆者の証言を届ける活動を 2008 年に始め、2016 年まで、続けてきた活動だ。

広島で 9 歳の時に被爆した平田道正さんに、この被爆者ストーリーズを紹介いただき、被団協がノーベル賞を受賞するにあたって、被爆者の証言の場を与えてくれた米国でも珍しい有期限ボランティア活動・市民活動によって海外の方が証言を聞く機会があったことを知る貴重な機会だった。



講演「Hibakusha　Stories の紹介」　平田道正

- 被爆者に対する反応は、1982 年に百万人集会が開かれたが、被爆者には関心が低かった。軍縮を前提に NPT が成立するも、核保有国は努力せず、Quaker 等の団体が、被爆発言の場提供に尽力。被爆証言の声が、国連等の場で広く聞かれ、核兵器は非人道的兵器として核兵器禁止条約が成立。
- HS は Sullivan と R.Croonquist が主催、140 校超の NY 高校で、学校を訪問したり、学生に証言会場に足を運んでもらい、直接的には 32000 人以上の生徒に、被爆者の証言を聞く機会を作り、相互交流型の軍縮教育ワークショップに参加する機会を与える、他に類のない世代を越え、多文化的な平和教育活動をしてきた。（2008～2015 年）



- HS は諸費用を全額負担し、被爆者を NY に招き、被爆者証言を聞かせ、UN 軍事局作成の平和学習マニュアルを使って核廃絶/軍縮教育を高校生に行った。演劇、音楽、映画などアートと結ぶ活動に参加することで特徴があり、同時に、日本文化を学生に紹介していた。
- 証言者としては、サーロー節子（在カ）、笹森茂子（在米）、山下泰昭（在メキシコ）の他に、日本から約 20 名が招かれた。毎春、2 組に分かれて、約 2 週間 NY に招き、約 40 人の支援者はボランティアで出迎えから食事、通訳、見送り迄証言者を支え、空いた時間には NY 観光や文化に触れる機会を作ってくれた。その他に色々な被爆者のプログラムに加わり、ICAN がノーベル平和賞受賞の時には ICAN 代表としてサーロ―氏がメダルを受けた。
- 丸木美術館の図 NY 展示会も開催された。

証言者の挨拶　山田玲子、塚本美知子、小寺隆幸

HS での体験を話され、Stories の仲間たちへの感謝のことばを語られた。また、元丸木美術館長小寺隆幸氏からは日本の現状を話し、日本では語る場がないのは残念と語られた。

所感：昨年のノーベル平和賞受賞のためにたくさんのアメリカの方々の核廃絶、平和運動の歴史の一端を、長い運動を続けてきた平田道正氏らの話を聞く機会に恵まれた。共創みらい塾の地道な平和運動継続に注目したい。（文責　中瀬）

山田玲子

小寺隆幸

第 11 回江東区地域福祉フォーラム

日時：11 月 27 日（木）13 時半～15 時半
場所：江東区文化センター・レクホール
共催：江東区、江東区社会福祉協議会
　　江東区助け合い活動連絡会

開会挨拶：
吉野義道（江東区助け合い活動連絡会代表）
岩崎裕之（江東区長寿応援課長）

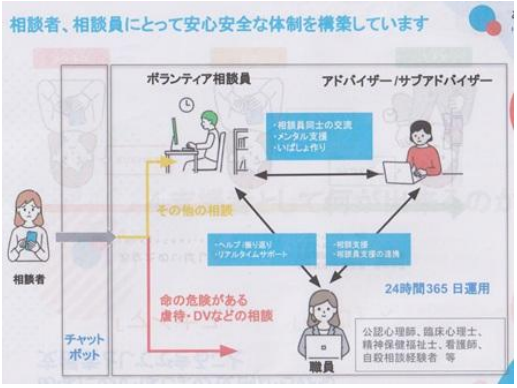
Ⅰ.基調講演「孤独・孤立を予防する地域プログラム～望まない孤独のない社会づくり～」

特定非営利活動法人あなたのいばしょ　理事長　　根岸督和

1. NPO あなたのいばしょについて
- 設立 2020 年 3 月　職員 38 名、ボランティア 1072 名（世界 40 か国）
- 理念：望まない孤独のない社会の実現：信頼できる人のアクセスできるチャット

2. 孤独・孤立はどのような状態？
- 孤独・孤立に悩む人を誰一人取り残さない社会、相互に支え合い、人と人との繋がりの社会
- 孤独：主観的概念で、一人ぼっちと感じる精神的な状態を指し、寂しいという感情
- 孤立：客観的概念で、社会との繋がりや助けのない又は少ない状態
- 世界のほぼ 1/4 が孤独を感じている。孤独感は自分の健康が悪いと評価する比率が 3 倍高い。
- 孤独の感じ方･捉え方は人によってさまざま。誰でも何時でも人生のあらゆる場面で起こりえる。

3. 私たちの活動内容
- アンケートには：死にたかったけど思いとどまれた。辛い思いを聞いてくれる人がいる安心感。相談できる人がいる安心感。とても優しく温かく安心した。
- 相談は累計 160 万件、1 日 1000 件寄せられる。女性 72.3%、10 代 37%、初回が 65.5%、相談内容：メンタル 28.4%、20～25 時がピーク、孤独感 8 割以上。



4. 支援者として何ができるのか
- 「マイナス」 ➡ 「ゼロ」へ
- 現在四半期に約 100 名の「相談員」が誕生している。

Ⅱ．グループワーク・意見交換：9 班に分かれて WS

①　地域のみんなの居場所、②コミュニティサロンで地域の繋がり、③集合住宅での助け合い
④　参加し易い運動で地域の繋がり、⑤認知症カフェ、⑥こどもも大人も心豊かに、
⑦コミュニティ活動と若者参加、⑧福祉困りごとなんでも相談、⑨社協カフェ「みんなの居場所」

（内容共有）各班から意見の発表があり、根岸氏から講評がなされた。

･各班の報告：自治会活動の衰退に若者が声をあげてくれた。大人食堂で人の繋がりが広がっている。認知症カフェで地域が優しくなってきた。参加することで規則正しい生活が。集合住宅で悩みを聞く会が継続。コミュニティサロンでカラオケ、草花をベースに繋がりが進む。地域の盆踊りなどで人びとの繋がりが広がった。

講評：根岸督和：チャンと聞いている人が多く、コミュニケーション力が強く、貴重な会に参加し感謝したい。

Ⅲ.江東区防災アプリ説明　大場勇（江東区危機管理課長）

- 江東区では防災アプリを作っている
  緊急情報をリアルタイムに、避難所情報、クラウドシステム、お役立ち情報満載
- 機能紹介：PUSH 通知で受信、防災マップ表示、避難発令情報、避難所情報、アプリ利用間での情報共有・・安否確認、こうとう・ライフライン情報/気象情報
- 防災アプリのダウンロードのお願い

閉会挨拶：渡辺恵司（江東区社会福祉協議会会長）

今後は、孤独・孤立相談も進めて行きたい。ラジオ体操などをベースに、楽しい地域づくりを展開し、孤独・孤立のない、人びとの繋がりやすい地域づくりを進めたい。

所感：地域の災害や、高齢化には、人と人との繋がりが一番大切との認識を広めたい。（文責　中瀬）